

# I 研究の概要

## 1. 研究主題

### 豊かな心をもち、進んで実践する稗田っ子の育成 ～規範的な行動を促すための総合単元的な道德学習の在り方～

## 2. 主題設定の理由

### (1) 社会の要請から

直接体験不足、国際化、情報化、少子高齢化、社会全体の教育機能やモラルの低下など、児童を取り巻く社会は、様々な場面において大きく変化してきている。これは、経済的・物質的に豊かになった反面、人間関係の希薄化や規範意識の低下、地域や社会の教育力の低下などが原因としてあげられる。この激しく変化する社会において、他人と協調しながら自律的に生活するために欠くことのできないものが「生きる力」であり、その核となるのが「豊かな心」である。

本研究では、人と人とのかかわりを大切にし、自ら考え判断し、行動していくことのできる、よりよい生き方を求める児童を育てようとするものである。

### (2) 学校の教育目標から

本校では、心身ともに健全で、豊かな心をもち、直く、正しく、たくましく生きる児童の育成」を教育目標とし、重点課題の一つとして「規範意識の育成」を掲げている。「規範意識の醸成」を図るためには、素直な感性や正しい判断力をはぐくみ、自信をもって生きる児童を育成するための教育活動を推進していくことが大切と考える。よりよい生き方を求め、実践する児童の育成を目指し、その基盤となる道德性を養う教育活動を展開していくことは、学校教育目標の具現化につながるものである。道德の時間と規範的な行動を促す他の教育活動との関連を図り、規範意識を育成することを目指した本研究は、正に「直く、正しく、たくましく生きる児童の育成」する上で学校教育目標の具現化に向けて大きな役割を果たすものとする。

### (3) 新学習指導要領の改訂から

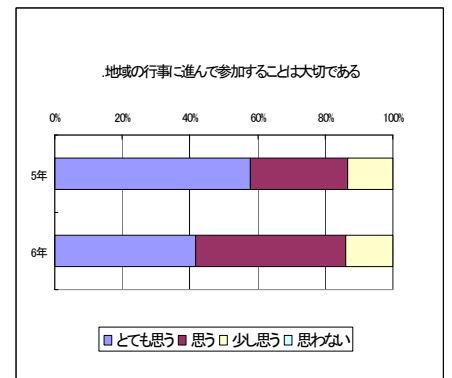
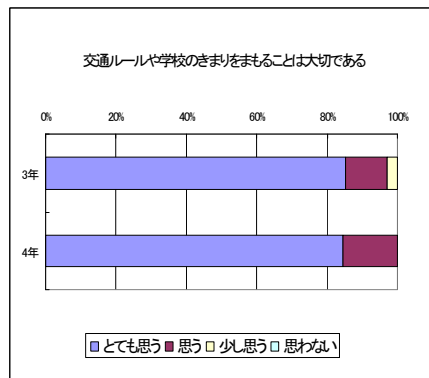
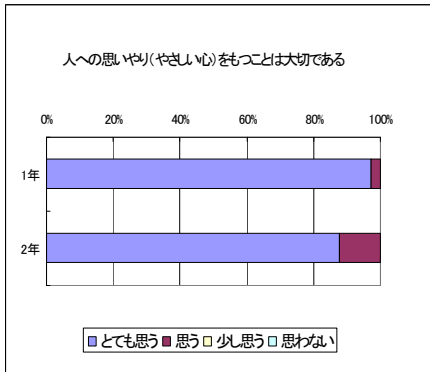
新学習指導要領の総則には「学校における道德教育は、道德の時間を要として学校の教育活動全体を通じて行うものであり、道德の時間はもとより、各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて、児童の発達の段階を考慮して、適切な指導を行わなければならない。」と示している。これには、児童が自らはぐくむ道德性が自己の生き方の指針として統合されるように、各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動における道德教育と、それらを補充・深化・統合する道德の時間の指導とが、十分に関連をもって機能することが大切であり、その上からも総合単元的な道德学習は、意義深いと考える。

### (4) 児童の実態から

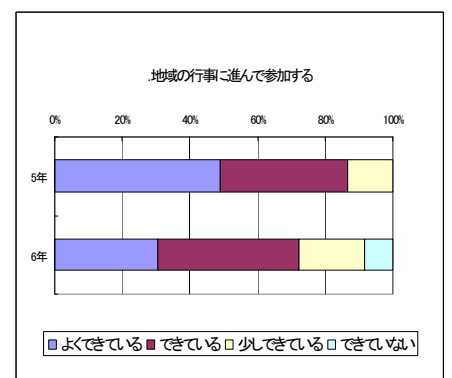
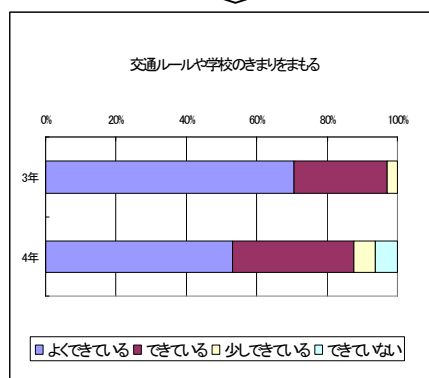
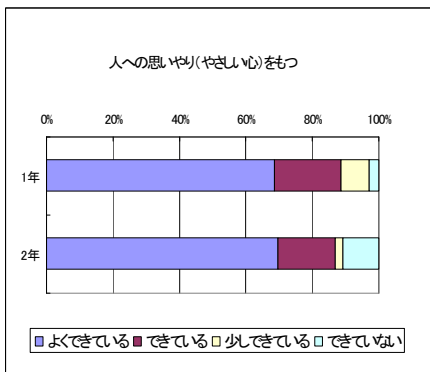
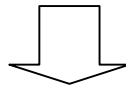
- 調査期日 平成22年5月7日
- 調査対象 行橋市立稗田小学校 1～6学年223名

本校の児童は、素直で明るく活発である。今年度初めに行った規範意識と行動化についての実態調査では、以下のような結果であった。

これらのことは、行為のよりどころとしての価値基準である規範は児童の中にあるものの、その基準に向かおうとする意識は内面化されておらず、内からの自発的な行動化までには至っていないことを示している。したがって、規範的な行動を促すために他の教科と道徳学習を関連させた総合単元を仕組み、規範意識の内面化を図る道徳学習の在り方を探っていくことは意義深いと考える。



**資料1 児童の規範意識について**



**資料2 児童の行動について**

(5) 人権教育の視点から

人権教育の指導方法等の在り方について(第3次取りまとめ)の「学校における人権教育」には、自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることを態度や行動にまで現れるようにすることが必要であると述べられている。さらに、他の人とともによりよく生きようとする態度や集団生活における規範等を尊重し義務や責任を果たす態度、具体的な人権問題に直面してそれを解決しようとする実践的な行動力などを児童が身につけられることが大切であるとも述べられている。

つまり、人権教育においては、児童が発達段階に応じ、「自他の大切さを認めること」ができるために必要な人権感覚を身につけることや、そのことを理解するに止まることなく、それが様々な場面や状況下での具体的な態度や行動に現れるようになることが求められている。

そこで、児童が他の人とともによりよく生きようとする態度や集団生活における規範等を尊重する態度を身につけられるようにするために、他者とのかかわりを大切に、規範的な行動がとれる児童の育成を目指す本研究は、人権教育の目標を達成するためにも意義深い。

### 3. 主題の意味

「豊かな心」とは

現在及び将来において出会う様々な場面や状況の中で、他者とのかかわりのなかで自分の立場を自覚し適切な行為を主体的に選択し、自ら進んで実践しようとする心の働きと考える。

「進んで実践する」とは

道徳的価値を内面から自覚し、より高い道徳的価値を主体的に選択し、求めていこうとする実践力であると考え。これは、よりよい生き方としての表れであり、規範的な行動がとれることをさす。

「豊かな心を持ち進んで実践する稗田っ子」とは

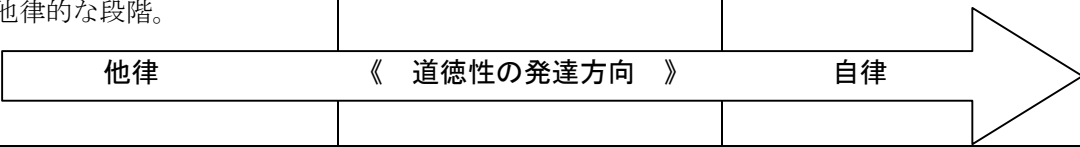
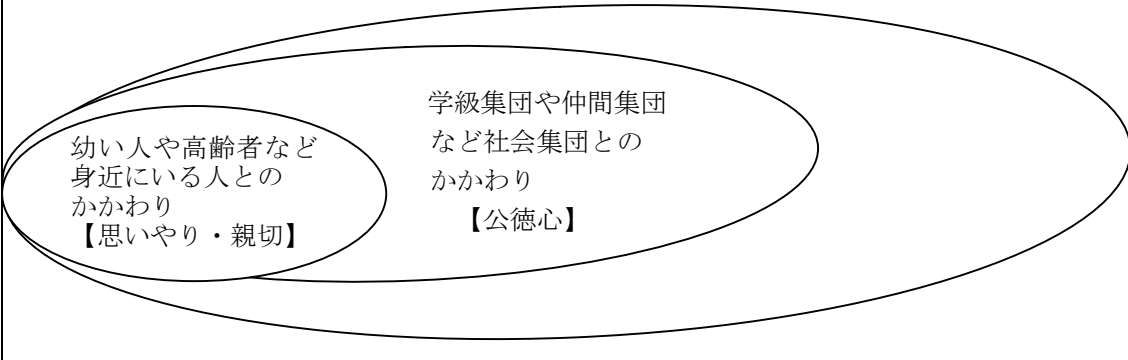
本研究がめざす「豊かな心を持ち実践する稗田っ子」とは、以下に示す「思いやり・親切」「公德心」「郷土愛」の道徳的価値が内面化され、自発的に規範に適する行動が取れる児童の姿を指す（資料3）。

道徳性の発達は基本的には他律から自律への方向をとる。自己中心性がかなり残っている低学年では、身近な人とかかわりから他者の立場を認めたり、理解したりする見方・考え方を深めるために重点項目を「思いやり・親切」とした。

集団の規則や遊びのきまりの意義を徐々に理解できてくる中学年では、集団とかかわりから、自分たちできまりをつくり守ろうとする自主性を高めるために重点項目を「公德心」とした。そして、抽象的・論理的に思考する力が増してくる高学年では、より広い立場から民主的な社会の一員としての自覚を維持し発展させるための基本的な価値観と規範意識を養い、社会の一員としての自覚を育てる必要がある。

そこで、身近な地域社会とかかわりから、郷土の伝統や文化を尊重する心が児童の内面から自覚されるために重点項目を「郷土愛」とした。本研究では、発達段階に応じて、それぞれの重点内容項目である道徳的価値が内面化され、自発的に規範に適する行動がとれる児童の姿を目指す。



	低学年	中学年	高学年
児童の発達段階 道徳性についての	正しさの基盤は、自分の外にあって、一番身近な存在である家族や教師の期待に答えることが正しいとする他律的な段階。	身近な社会集団にも目を向けはじめ、正しき基準が社会集団などの規則に同調していく傾向を示す段階。	学校や地域社会に積極的に貢献し、自分の役割を果たすことに正しさを見出すといった自律的な傾向を示す段階。
	<div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> <span>他律</span> <span>《 道徳性の発達方向 》</span> <span>自律</span> </div> 		
かかわり (重点内容項目)			
親切 思いやり	<b>幼い人や高齢者に温かい心をもって親切にする子ども</b>	相手の事を思いやり進んで親切にする子ども	誰に対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にする子ども
公德心	約束やきまりを守り、みんなが使う物を大切にする子ども	<b>きまりの大切さを理解し、進んで約束や社会・集団のきまりを守る子ども</b>	公德心をもって、法やきまりを守り、自他の権利を大切にしながら進んで義務を果たす子ども
郷土愛	郷土のよさに気づき、郷土の文化や生活に親しみ、愛着をもつ子ども	郷土のよさを理解し、郷土の伝統と文化を大切に、郷土を愛する心をもつ子ども	<b>郷土のよさを味わい、郷土や我が国の伝統や文化を大切に、先人の努力を知り、郷土や国を愛する心をもつ子ども</b>

資料3 目指す児童像

4. 副主題の意味

「規範的行動」を促すとは

規範とは、人がよりよく生きていくためによりよい行いを積極的に志向する規準である。

規範を内面化させ、自律的な判断の下に規範に適する行動を表出させる動機づけを行うことである(資料4)。規範の内面化とは、社会規範の意味や必要性がよく分かり、自己の行動を律しようとする自覚が深まっている状態である。

規範の内面化の要素1: わかる

規範を内面化するにあたっての要素として、次の3つがあげられる。規範の持つ意義を理解することが欠かせない。つまり、規範の意味内容や機能の重要性がわかることが内面化の一つめの要素と言える。

要素2: 感じる

次に規範に適する行動をすることによって伴う感情、つまり、快感情、不実行による嫌悪感、罪悪感をもつこと、つまり、感じることが、よりよい生き方をし

要素3: できる

ようとする意欲をもつことになり、内面化の二つめの要素と言える。

さらに、規範に適する行動のとり方が分かり、できるといった技能が必要である。つまり、場面や状況に応じた行動のとり方が分かってできることが内面化の三つめの要素と言える。

規範的行動の  
動機づけ

内面化した規範を表出するには、動機づけが欠かせない。その、動機づけに影響を与えるものとして「達成感」「他者からの期待感」「自己有用感」を高めることが大切である。

「達成感」

「達成感」とは、自分の克服すべき課題がわかり、それを克服することを目標として高い水準で成し遂げたときに感じるものである。

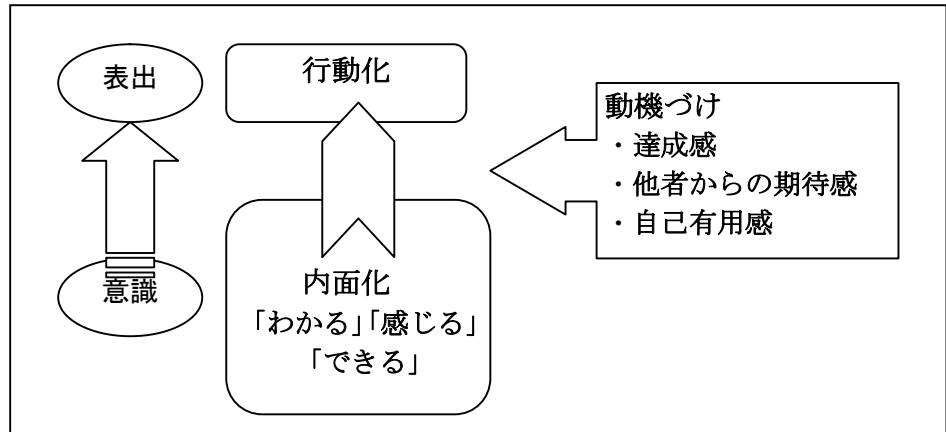
「他者からの期待感」

「他者からの期待感」とは、他者から信頼や励まし、賞賛、評価されたりすることで感じる事ができる。

「自己有用感」

「自己有用感」とは、自分の役割がわかり、自分の行いが他者のためになる、社会の役に立つという意味を見出したときに感じるものである。

以上のことから規範的な行動が促される仕組みを次のように考える（資料3）。



資料4 規範的な行動が促される仕組み

「規範的な行動を促すための総合単元的な道徳学習」とは

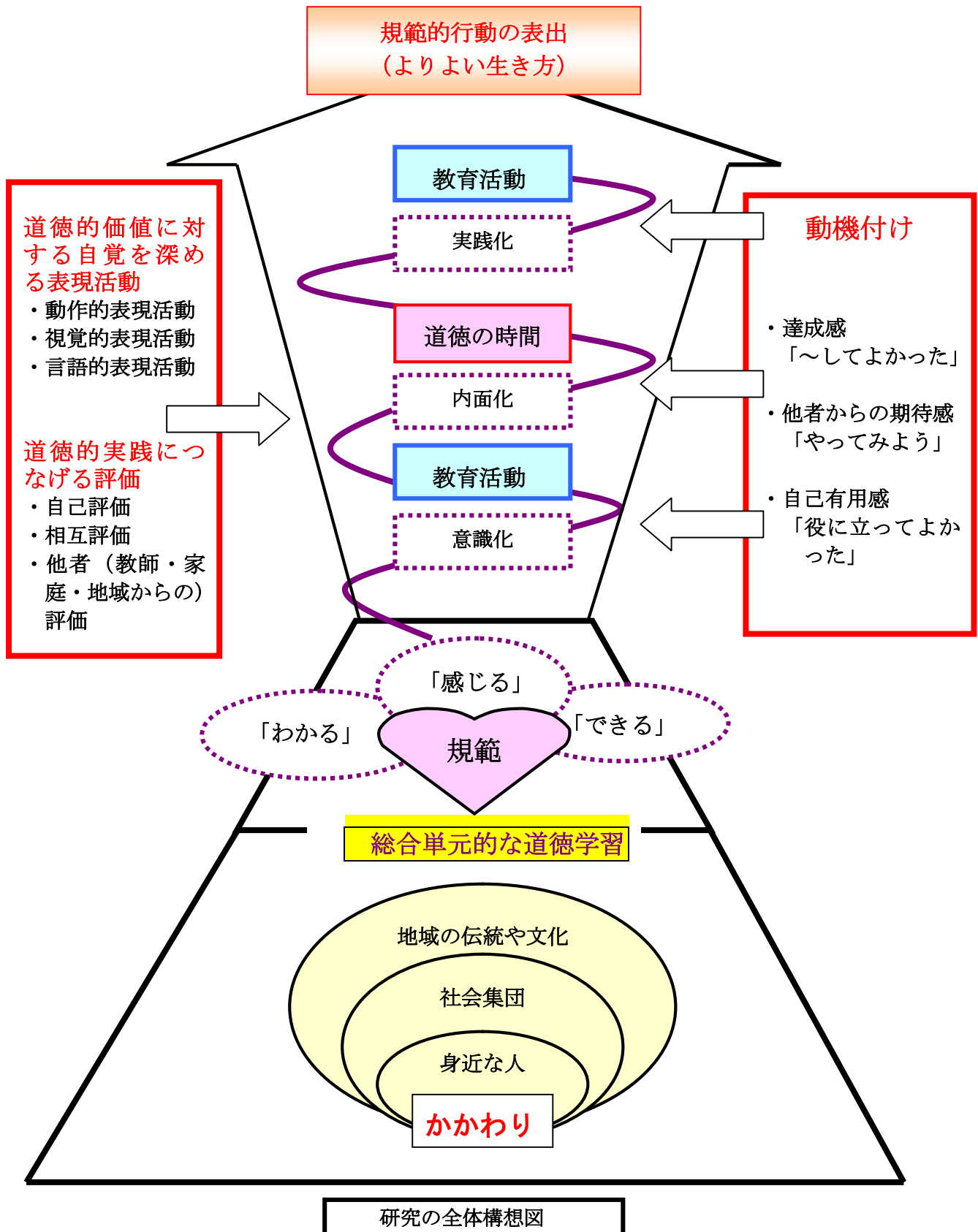
道徳の時間の指導を要として、子どもが道徳的価値にふれ、内面の道徳的心情を耕することができる教育活動（生活科、総合的な学習の時間、特別活動、日常活動、各教科等）を関連させ、一つのまとまりとして単元を構成し、それらを一連の学習として展開し、子どもの意識を連続的・発展的に高めていき、よりよい生き方である規範的行動へと促すものである。

5. 研究の目標

豊かな心をもち、進んで実践する子どもを育成するために、道徳の時間の指導を中心に、特別活動、生活科、総合的な学習の時間、日常の指導、各教科等を関連させ、児童の規範的な行動を促す総合単元的な道徳学習の在り方を究明する。

6. 研究構想図

研究主題『豊かな心もち、進んで実践する稗田っ子の育成』  
 ～規範的は行動を促す総合単元的な道徳学習を通して～



## 7. 研究仮説

規範的な行動を促すための道德の時間を中心にした教育活動において、次の3点を工夫すれば、子どもの道德的価値に対する主体的自覚が深まり、道德的実践力が育つであろう。

- ① 道德の時間と教育活動の関連を図った単元構成
- ② 道德的価値に対する自覚を深める表現活動
- ③ 道德的価値に対する自覚の深まりを実践につなげる評価

## 8. 研究内容

### (1) 道德の時間と教育活動の関連を図った単元構成

知識だけの概念的理解に基づいた学習では、切実感を伴わない課題意識の薄い学習になり、道德的実践力まで高めることは難しい。

そこで、本研究では、道德の時間と道德的価値が内在し、道德的心情を耕すことができる教育活動を関連させた総合単元的な道德学習を仕組み、子どもの課題意識を連続的・発展的に高めていく。このことは、子どもがよりよく生きることを主体的に考え、行動として表出すること、つまり、規範的行動を促すことができるようになる。

#### 「総合単元的な道德学習の留意点」

- ① 子どもの意識の流れを大切にする  
ねらいとする道德的価値について、単元の中で、子どもがどのような心の動き、つまり、意識の流れが起こるのかを押さえ、子どもが連続的に道德学習を発展させられるように、意図的な働きかけをしていく。特に、3つの感を高める意図的・計画的な働きかけを通して、ねらいとする道德的価値に関する子どもの心の動きを連続化させていく。
- ② 道德の時間を中心に位置づける。  
道德の時間を中心に教育活動や日常指導について、ねらいとする道德的価値に関する子どもの意識の流れに働きかける位置づけを行い、価値の自覚が深められるように道德学習を発展させていく。

#### 「総合単元的な道德学習の構成の手順」

- ① 総合単元名の設定  
・指導内容や目指す子どもの姿がわかるもの
- ② 規範的な行動を促す教育活動における道德的価値の分析  
・総合単元の視点から教育活動において働きかけを行う道德的価値「思いやり・親切」「公德心」「郷土愛」を明確にもつ。
- ③ 道德の時間の主題の選定  
・児童の意識の流れや他の教育活動との関連から総合主題にせまる主題を選定する。
- ④ 指導順序の決定  
・道德の時間を要にして、他の教育活動を有機的に位置づけ、道德的実践意欲

が高まる方向で、「自己有用感」「達成感」「他者からの期待感」の動機付けを行っていくように、指導の順序を決定する。

#### ア. 特別活動

道徳の時間で培う道徳実践力が学級活動においては道徳的实践の場として機能するように、また、それとは逆に学級活動での指導が道徳の時間において道徳的価値の自覚より促進するように位置づける。

学校内における、児童の規範的行動目標である「稗田小5つのやくそく」は、児童会の生活の月目標として取り組み、総合単元の中で有機的に位置づける。

##### 稗田小5つのやくそく

- ①やさしい言葉をつかおう
- ②友達と助け合おう
- ③そうじをまじめにしよう
- ④ろうかは静かに歩こう
- ⑤学習の準備をし  
チャイムを守ろう

#### イ. 生活科

生活科は、日常生活の場である学校・家庭・地域から学習が始まり、学習したことがその日常に生きていくようにしていく。すなわち、体験を通しての道徳教育の時間といえる。この生活科の特質をいかし、道徳の時間との関連を図っていく。

#### ウ. 総合的な学習の時間

総合的な学習の時間の目標に「自己の生き方を考えることができるようにする」とあるように、総合的な学習の時間は、社会や自然の中に生きる一員として、自らの生活や行動について考えたり、自分にとって学ぶことの意味や価値を考えたり、自分の可能性に気づき、自分の人生について考えたりするなど、道徳教育と密接に関連している。

年間指導計画に基づいた位置づけを基本とするが、総合的な学習の時間の特質を踏まえながら、総合単元の視点から内容を分析、検討し、位置づける。

#### エ. 各教科

各教科の特質に応じて、それぞれの単元ごとに培った道徳性と道徳の時間の指導内容が類似しているものを意図的に関連付けていくことで相互の指導の充実を図っていく。

#### オ. 日常的な活動の位置づけ

- ・自分を見つめる場として位置づける。（心のノート等の活用）
- ・他者のよさを見つめる場として位置づける。
- ・道徳的実践の場として位置づける。

##### ⑤ 家庭や地域との連携

学校・家庭・地域が子どもをよりよく育てようとする意識をもち、子どもにかかわり、子どものよさを見取っていく。

##### ⑥ 学習環境の整備

子どもの意識の連続化を図る学習環境を構成していく。

## (2) 道徳的価値に対する自覚を深める表現活動の工夫

### 「道徳の時間の表現活動」

道徳の時間において、子どもが自分を見つめ表現する場を設定し、自己を表現させることは、自分の考えを明確に自覚させたり、これまでの生き方をみつめさせたりすることができる。また、一人一人のものの見方や考え方を尊重しながら道徳的価値を追求していくことができる。

#### ① 道徳の時間の表現活動

本研究では、発達段階に応じて、自分の思いや考えを表現する手立てとして道徳の時間に以下のような表現活動を取り入れている（資料5）。

- ア 書く活動…道徳ノートを手紙形式や吹き出しの形式にして自分の気持ちを書いたり、自分の見方・感じ方・考え方を自由に書いたりして自己を表現する。
- イ 話す活動…対話、小集団討論、立場討論等、言葉を通して、相互作用の過程において、学習内容を深める。一定の結論を出す時間ではなく、一人一人のものの見方や考え方を尊重しながら道徳的価値を追求していく。
- ウ 即興的な演技活動…特定の役割を与えて即効的に演技することで、道徳的価値を体得する。これには、実際の行動場面を再現させたり（再現法）、一定条件の下に自由に行わせたり（構成法）、当面の問題を取り上げて演じたり（即興法）する。
- エ 動作化による演技活動…動きや台詞の真似をして理解を深めていく。
- オ 図形や絵等を活用した視覚に訴える活動…色、線、表情、シーソー、ネームカードなどで自分の考えを表現させ、考えの変化等を視覚的にとらえる。
- カ 小道具の活用した視覚に訴える…人形やペープサート、紙芝居などをもって自由に演じる。

学年	表現活動			
	動作的表現活動	視覚的表現活動	言語的表現活動	
			書く活動	話し合い活動
低学年	動作化・役割演技	ペープサート 人形劇	吹き出し 手紙	対話
中学年	役割演技	心情動作図 表情図 シーソー図 心情曲線 心のものさし	自由記述（なぜそう思ったのか根拠を明らかにしながら書く）	小集団討論
高学年				立場討論

資料5 発達段階に応じた表現活動

### 「教育活動での学びを生かす道徳の時間」

#### ② 教育活動での学びを生かす道徳の時間

道徳の時間と関連させた教育活動での学びを生かし、道徳的価値を深め、道徳的行動を促すことができる道徳の時間となるように、主に次の点に留意する。

- ア 児童にとって身近な素材、特に事前の教育活動との関わりを考慮した資料を選定し活用することで、ねらいとする価値について自分自身の課題としてとらえさせ、深く考えさせる。
- イ 今までの自分はどうかを事前の教育活動での自分を振り返ることを通して、道徳性における自分自身のよさをより実感をもって把握させる。

道徳の時間と関連させた教育活動での学びを生かし、道徳的価値を深めさせる表現活動を取り入れた道徳の時間の指導過程は、次に示す通りである（資料5）。

	学習活動	具体的な手だて
(導 入) き づ く	<p>1.本時のねらいとする価値にかかわる提示から、課題意識を持つ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時のねらいとする価値に気づく。</li> <li>・本時のねらいとする価値に感心をもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 事前の教育活動の写真・ビデオの提示による・ねらいとする価値への方向づけをする。</li> <li>○ 「心のノート」や本時のねらいとなる道徳的価値についてのアンケート結果等から学習への課題づくりや方向付けをする。</li> </ul>
(展 開) 見 つ め る	<p>2. 資料中の人物の生き方を追求する中でねらいとする価値についての考え方や感じ方を深める。</p> <p>※表現活動を通して、資料の登場人物の言動について考え、ねらいとする価値について、深く考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 事前の教育活動とのかかわりを考慮し、ねらいとする価値について、深く考えることができる資料の選定をする。</li> <li>○ 紙芝居、場面絵、ペープサート、効果音などを活用し、資料の場面状況の把握をさせる。</li> <li>○ 価値について、自分自身のこととして考えられるような発問の工夫をする。</li> <li>○ <b>演技的活動（動作化・ペープサート・役割演技など）、書く活動、視覚的活動（ペープサート、心情図・表情図等）、話す活動（対話・小集団討論・立場討論）等を通して、子どもが主人公と自分自身を重ねて考え、ねらいとする道徳的価値について深く考えさせる</b></li> </ul>
考 え る	<p>3.資料を通して考えた価値をもとに、自分の心の中を見つめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活体験の中での自分を見つめ直し、資料に描かれた道徳的価値を自分の問題として受け止めて、深く自分を見つめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 道徳の時間と関連した道徳的価値を含んだ教育活動の写真等を活用し、自分を見つめ直し、ねらいとする価値を内面的に自覚させる。</li> </ul>
(終 末) あ た た め る	<p>4.ねらいとする価値を確認するとともに、よりよい生き方への手がかりを得る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の整理・まとめをする。</li> <li>・心に残したいことをまとめる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 作文、写真、GT、心のノートを活用し、学んだ価値をまとめさせ、これからの生き方につなげる。</li> <li>○ 教師の説話や保護者の手紙などにより、自分のよさであるよりよい生き方を振り返らせ、価値の印象づけをするとともに、道徳的実践への意欲を図る。</li> </ul>

資料6「表現活動」を取り入れた道徳の時間の指導

## (2) 道徳的価値に対する自覚の深まりを実践につなげる評価の工夫

「道徳教育における評価は、教師が児童の人間的な成長を見守り、児童自身が自己のよりよい生き方を求めていく努力を評価し、それを勇気付けるはたらきをもつものである」（小学校学習指導要領解説 道徳編）と示されているように、よりよい生き方としてのあらわれである規範的な行動を促す上で重要な意味を持つ。

さらに、小学校学習指導要領（第1章総則第4-2-(11)）では、「児童のよい点や進歩の状況などを積極的に評価するとともに、指導の過程や成果を評価し、指導の改善を行い学習意欲の向上に生かすようにすること」と示されている。道徳教育における評価は、学習意欲を高め、継続させ、道徳的実践へとつないでいくことが大切である。

そこで、道徳の時間と教育活動、日常の指導において、児童のよりよい生き方を積極的に見取ったものを児童に返したり、児童相互で交流したりすることを通して、道徳的価値の理解を深め、道徳的価値の実現への意欲を喚起し、3つの感を高め規範的な行動を促す評価を行う。

### 評価の工夫

#### 自己評価

- ・自分のよさを見つめ「心のノート」や「道徳ノート」で振り返る。  
達成感・自己有用感
- ・意識と行動化の面と動機づけの三つの感についての自己評価を総合単元のはじめと終わりで行う。  
達成感・自己有用感・期待感

#### 相互評価

- ・活動後、あるいは朝・帰りの会において、友だちのよさについて認め合う。  
他者からの期待感
- ・お互いのよさを認めあえる、教室環境「道徳コーナー」を設置する。  
自己有用感

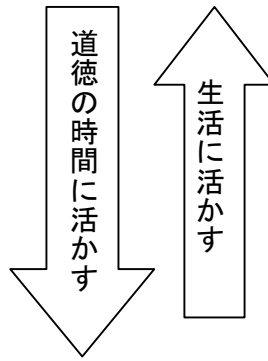
#### 教師からの評価

- ・観察や児童の自己評価・相互評価から、ねらいとする道徳的価値における子どものよさを見取り、賞賛の声かけや学級の中で紹介する。  
他者からの期待感
- ・子どものよさである言動や写真を記録しておき、道徳の授業（あたるための段階）等で活用する。  
自己有用感

#### 家庭・地域からの評価

- ・学校・学級便りや懇談会、リーフレットを通して、総合単元的な道徳教育の啓発や学校（教師）が見取った子どものよりよい行いの収集や発信を行う。「心のノート」・子どもへ手紙・アンケートなどを通して、家庭が見取った子どものよさを収集する。  
期待感・自己有用感

教育活動・日常の指導



### 道徳の時間

#### 自己評価

・資料に描かれた道徳的価値を自分の問題として受け止めて、深く自分を見つめることができたかを「今日の学習で」で振り返る。

—評価項目—

- ① 自分の考えや思いを持つことができたか。
- ② 友だちの考えを真剣に聞くことができたか。
- ③ 今日の授業で、新しく学んだことや感じたことがあったか。等  
達成感・自己有用感

#### 教師からの評価

○ 価値の自覚を深める表現活動の有効性について  
書く活動、動作的表現活動（動作化・ペープサート・役割演技など）、話し合い活動（対話化・小集団討論・立場討論）を通して、児童が主人公と自分自身を重ね、ねらいとする価値について考えさせることで

- ・道徳的価値についての理解が深まったか。
- ・自分とのかかわりで道徳的価値がとらえられたか。

※ビデオ,道徳ノート,授業記録から分析する。

